

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査

## 調査結果のポイントについて

### ～北海道（公立）における調査結果～

本資料は、国が公表した調査結果のうち、「平成26年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」に示された全国の調査結果に基づき、全国と北海道の公立学校の調査結果の比較ができるようにまとめたものです。

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
■教科に関する調査	
■児童生徒質問紙調査	
■学校質問紙調査	
3. 教科に関する調査	
■小学校〈国語・算数〉	4
■中学校〈国語・数学〉	12
■過去の同一問題との比較	22
4. 質問紙調査	
■「2. 結果の概要」で示した項目	23
■その他	
・学習に対する関心・意欲・態度	29
・学習及び指導の状況	33
・学校生活等	39
・学習習慣	41
・生活習慣	44
・社会に対する興味・関心	44
・規範意識	46
・地域との関わり	47



# 1. 調査の概要

## 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

## 3 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
  - ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕
  - ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査

## 4 調査の方式

悉皆調査

## 5 調査期日

平成26年4月22日（火）

## 6 平成26年4月22日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,096	1,096(100.0%)	42,951	小学校	20,217	20,177(99.8%)	1,080,663
中学校	623	621(99.7%)	41,772	中学校	9,813	9,742(99.3%)	1,018,365
合計	1,719	1,717(99.9%)	84,723	合計	30,030	29,919(99.6%)	2,099,028

※ 小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校、特別支援学校中学部を含む ※ 札幌市を含む  
 ※ 対象生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校（中2校）は、実施学校数(校)に含まれていない

## 【用語説明】

語句	説明
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

## 【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

## 2. 結果の概要

### ■ 教科に関する調査

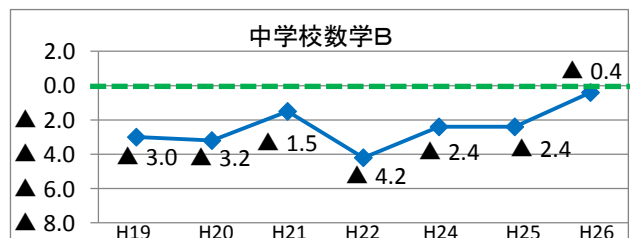
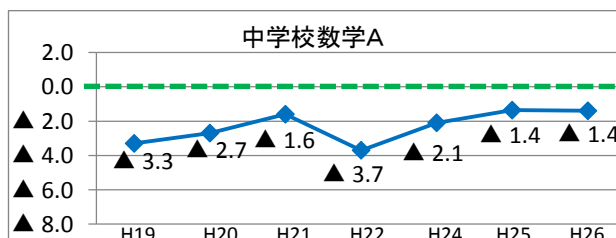
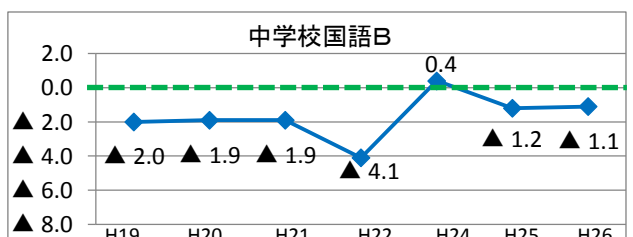
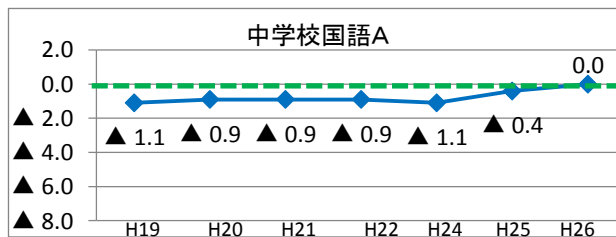
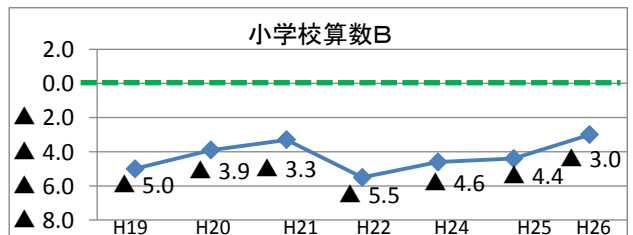
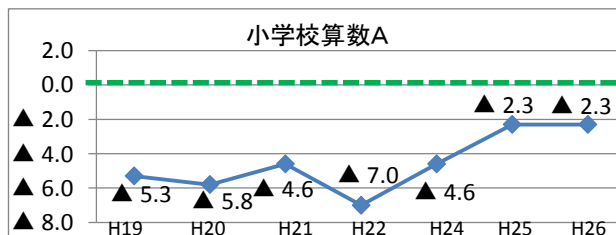
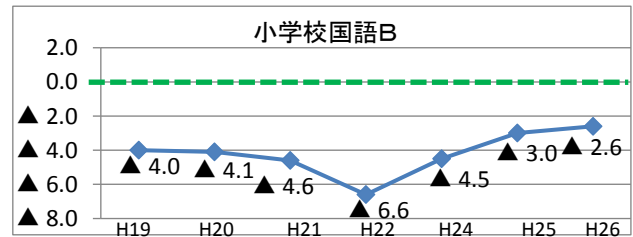
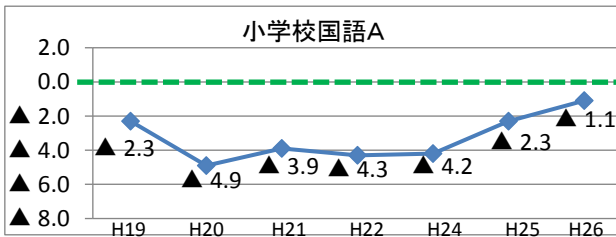
- 平成25年度と比べて、全国の平均正答率との差が、小学校算数A、中学校数学Aの2教科で同じ、小学校国語A、国語B、算数B、中学校国語A、国語B、数学Bの6教科で差が縮まり、そのうち、中学校国語Aは全国と同じ。
- 小学校は、すべての教科で全国との差が3.0ポイント以内。
- 中学校は、すべての教科で全国との差が1.4ポイント以内。

### 各教科の平均正答率

( )は平成25年度

		小学校				中学校			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平均正答率 (%)	道	71.8 (60.4)	52.9 (46.4)	75.8 (74.9)	55.2 (54.0)	79.4 (76.0)	49.9 (66.2)	66.0 (62.3)	59.4 (39.1)
	国	72.9 (62.7)	55.5 (49.4)	78.1 (77.2)	58.2 (58.4)	79.4 (76.4)	51.0 (67.4)	67.4 (63.7)	59.8 (41.5)
平均正答数 (問)	道	10.8/15 (10.9/18)	5.3/10 (4.6/10)	12.9/17 (14.2/19)	7.2/13 (7.0/13)	25.4/32 (24.3/32)	4.5/9 (6.0/9)	23.8/36 (22.4/36)	8.9/15 (6.3/16)
	国	10.9/15 (11.3/18)	5.5/10 (4.9/10)	13.3/17 (14.7/19)	7.6/13 (7.6/13)	25.4/32 (24.4/32)	4.6/9 (6.1/9)	24.3/36 (22.9/36)	9.0/15 (6.6/16)

### 全国と北海道の平均正答率の差



※ H19～H21、H25、H26は悉皆調査で実施

※ H23は、震災の影響で国は従来の調査としての実施を見送り、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載

※ 数値は、北海道の平均正答率－全国(公立)の平均正答率の差で算出

■ 児童生徒質問紙調査（グラフはP23～P25に掲載）

（ ）内は質問番号

- 国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で59.9%、中学校で59.7%であり、昨年度と比べて、小学校で2.4ポイント、中学校で0.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.7ポイント、中学校で1.5ポイント高い。（小50、中50）
- 算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校で64.0%、中学校で56.1%であり、昨年度と比べて、小学校で0.4ポイント、中学校で0.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で2.1ポイント、中学校で0.5ポイント低い。（小62、中62）
- 家で授業の復習をする児童生徒の割合は、小学校で62.6%、中学校で55.8%であり、昨年度と比べて、小学校で3.5ポイント、中学校で1.5ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.6ポイント、中学校で5.4ポイント高い。（小24、中24）
- 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で51.4%、中学校で61.2%であり、昨年度と比べて、小学校で0.9ポイント高く、中学校で0.9ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.6ポイント、中学校で6.7ポイント低い。（小14、中14）
- 普段、1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたり（テレビゲーム除く）する児童生徒の割合は、小学校で41.0%、中学校で33.8%であり、昨年度と比べて、小学校で0.2ポイント低く、中学校で1.4ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.0ポイント、中学校で2.3ポイント高い。（小11、中11）
- 普段、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をする児童生徒の割合は、小学校で22.8%、中学校で24.1%であり、昨年度と比べて、小学校で2.4ポイント、中学校で6.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で5.8ポイント、中学校で3.8ポイント高い。（小12、中12）

■ 学校質問紙調査（グラフはP26～P28に掲載）

（ ）内は質問番号

- 国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合は、小学校で73.7%、中学校で40.3%であり、昨年度と比べて、小学校で4.9ポイント、中学校で7.8ポイント高い。全国と比べて、小学校で9.0ポイント、中学校で8.2ポイント低い。（小80、中78）
- 算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合は、小学校で78.2%、中学校で48.5%であり、昨年度と比べて、小学校で5.4ポイント、中学校で5.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で6.7ポイント、中学校で4.5ポイント低い。（小82、中80）
- 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持の徹底を「よく行った」学校の割合は、小学校で60.6%、中学校で69.6%であり、昨年度と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で2.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.2ポイント、中学校で8.5ポイント高い。（小35、中35）
- 学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導を「よく行った」学校の割合は、小学校で56.6%、中学校で46.4%であり、昨年度と比べて、小学校で2.1ポイント高く、中学校で同じ。全国と比べて、小学校で3.4ポイント、中学校で0.8ポイント高い。（小36、中36）
- 授業の冒頭で目標を児童生徒に示す活動を計画的に「よく行った」学校の割合は、小学校で60.4%、中学校で42.4%であり、昨年度と比べて、小学校で10.3ポイント、中学校で10.2ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.0ポイント、中学校で6.6ポイント低い。（小28、中28）
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に「よく行った」学校の割合は、小学校で45.3%、中学校で33.8%であり、昨年度と比べて、小学校で7.4ポイント、中学校で8.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で3.0ポイント、中学校で5.2ポイント高い。（小29、中29）

### 3. 教科に関する調査

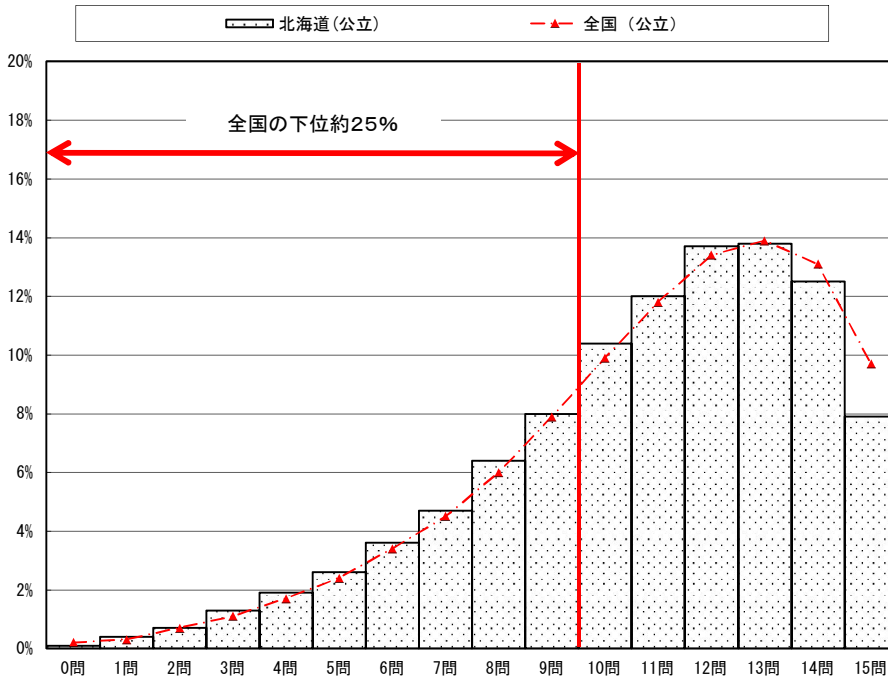
#### ■ 小学校国語A

##### 【概要】

- 平均正答率は、71.8%
- 全国の平均正答率との差は、-2.3ポイント（平成25年度）から-1.1ポイントに縮小

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,951	10.8 / 15	71.8	11.0	3.1
全国（公立）	1,080,663	10.9 / 15	72.9	12.0	3.1

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.1	0.2
1問（6.7%）	0.4	0.3
2問（13.3%）	0.7	0.7
3問（20.0%）	1.3	1.1
4問（26.7%）	1.9	1.7
5問（33.3%）	2.6	2.4
6問（40.0%）	3.6	3.4
7問（46.7%）	4.7	4.5
8問（53.3%）	6.4	6.0
9問（60.0%）	8.0	7.9
10問（66.7%）	10.4	9.9
11問（73.3%）	12.0	11.8
12問（80.0%）	13.7	13.4
13問（86.7%）	13.8	13.9
14問（93.3%）	12.5	13.1
15問（100.0%）	7.9	9.7



9問以下の割合	29.7	28.2
---------	------	------

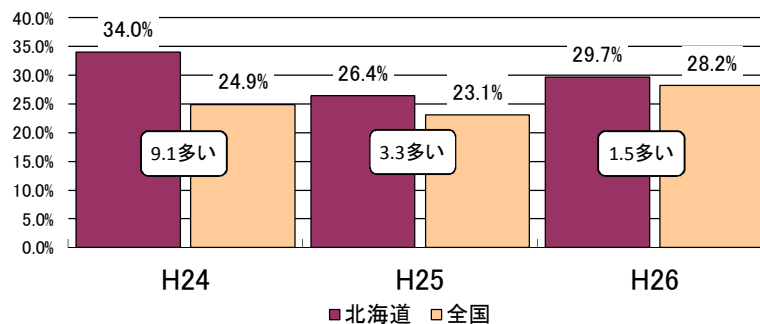
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、9問以下の正答数（正答率は60%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

#### 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	34.0%	24.9%	26.4%	23.1%	29.7%	28.2%
	17問中 12問以下		18問中 8問以下		15問中 9問以下	
全国との差	9.1 多い		3.3 多い		1.5 多い	
拡大・縮小	差が5.8ポイント縮小			差が1.8ポイント縮小		



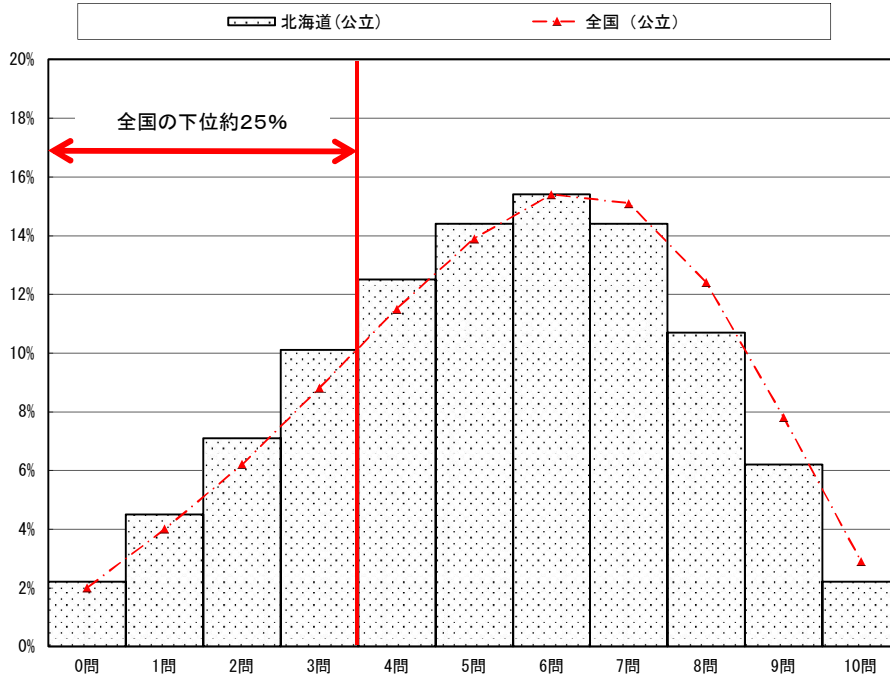
## ■ 小学校国語B

### 【概要】

- 平均正答率は、52.9%
- 全国の平均正答率との差は、-3.0ポイント（平成25年度）から-2.6ポイントに縮小

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,939	5.3 / 10	52.9	5.0	2.4
全国（公立）	1,080,444	5.5 / 10	55.5	6.0	2.4

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	2.2	2.0
1問（10.0%）	4.5	4.0
2問（20.0%）	7.1	6.2
3問（30.0%）	10.1	8.8
4問（40.0%）	12.5	11.5
5問（50.0%）	14.4	13.9
6問（60.0%）	15.4	15.4
7問（70.0%）	14.4	15.1
8問（80.0%）	10.7	12.4
9問（90.0%）	6.2	7.8
10問（100.0%）	2.2	2.9



3問以下の割合	23.9	21.0
---------	------	------

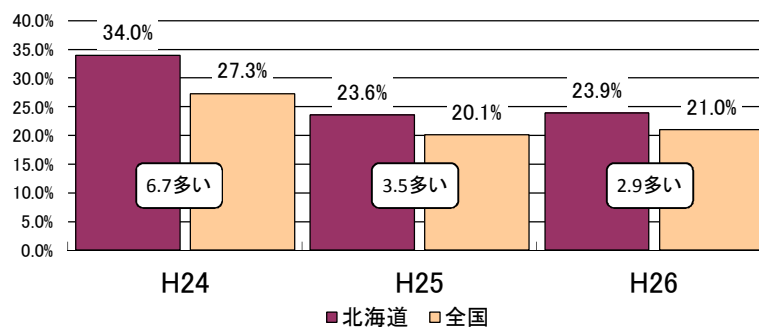
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、3問以下の正答数（正答率は30%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

### 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	34.0%	27.3%	23.6%	20.1%	23.9%	21.0%
	11問中4問以下		10問中2問以下		10問中3問以下	
全国との差	6.7 多い		3.5 多い		2.9 多い	
拡大・縮小	差が3.2ポイント縮小			差が0.6ポイント縮小		

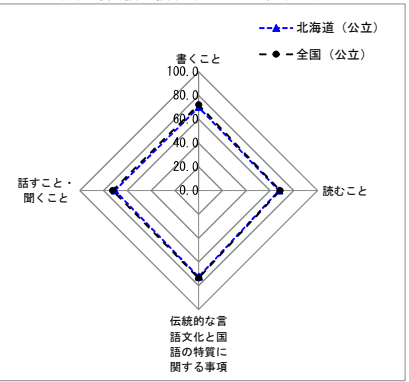


# 設問別調査結果 [国語A：主として知識]

## 集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,096	20,177		42,951	1,080,663
分類	区分		対象設問数（問）	平均正答率（%）	
	全体			北海道（公立）	全国（公立）
			15	71.8	72.9
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		1	70.5	72.4
	書くこと		3	70.1	72.2
	読むこと		2	67.6	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		12	72.6	73.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		0		
	話す・聞く能力		1	70.5	72.4
	書く能力		3	70.1	72.2
	読む能力		2	67.6	68.5
問題形式	言語についての知識・理解・技能		12	72.6	73.7
	選択式		7	66.0	66.6
	短答式		8	76.9	78.5
	記述式		0		

## <学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）
1-（1）	漢字を読む（道路の標識を見る）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				5-6 (1)ウ(ア)						○	○		90.7	91.7	1.8	1.7
1-（2）	漢字を読む（街灯がつく）					5-6 (1)ウ(ア)						○	○		86.5	87.0	2.9	2.5
1-（3）	漢字を読む（塾いよく走り出す）					5-6 (1)ウ(ア)						○	○		77.3	74.4	1.4	1.5
1二（1）	漢字を書く（料理をのせたさらを運ぶ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				5-6 (1)ウ(ア)						○	○		97.3	97.8	0.9	0.6
1二（2）	漢字を書く（勝利をいわず）					5-6 (1)ウ(ア)						○	○		52.9	59.3	9.1	6.8
1二（3）	漢字を書く（かぜをよぼす）					5-6 (1)ウ(ア)						○	○		75.0	77.4	8.3	7.2
2-	故事成語の使い方として適切なものを選択する（五十歩百歩）	故事成語の意味と使い方を理解する				3-4 (1)ア(イ)						○	○		61.6	55.8	0.3	0.3
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する（百聞は一見にしかず）					3-4 (1)ア(イ)						○	○		48.1	49.9	0.5	0.5
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果を捉える	3-4 オ			5-6 (1)イ(キ)					○	○	○	56.2	58.7	0.2	0.2	
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える			5-6 ウ							○	○		72.4	71.7	0.2	0.3
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く	物語の登場人物の相互関係を捉える			5-6 エ							○	○		62.9	65.3	0.6	0.5
6-	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く			5-6 オ	5-6 (1)イ(キ)					○	○	○	72.8	74.9	6.1	5.7	
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	仮定の表現として、適切なものを捉える			5-6 オ	5-6 (1)イ(キ)					○	○	○	81.4	83.1	1.9	2.0	
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	5-6 ア								○	○		70.5	72.4	1.8	2.1	
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する（はかる）	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する				3-4 (1)イ(キ)						○	○		71.8	74.3	2.4	2.7

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	0/17問	4/18問	3/15問
無解答率が全国以下の設問数	1/17問	8/18問	8/15問
無解答率が5ポイント以上の設問数	6/17問	12/18問	3/15問

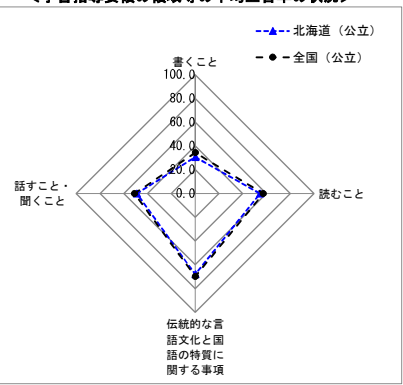


設問別調査結果 [国語B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象児童数	北海道（公立）	全国（公立）
	1,096	20,176		42,939	1,080,444
分類	区分		対象設問数（問）	平均正答率（%）	
	全体			北海道（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		3	49.2	51.2
	書くこと		3	30.7	34.4
	読むこと		7	54.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		2	68.0	69.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		3	30.7	34.4
	話す・聞く能力		3	49.2	51.2
	書く能力		3	30.7	34.4
	読む能力		7	54.5	57.3
問題形式	言語についての知識・理解・技能		2	68.0	69.8
	選択式		4	60.4	62.1
	短答式		3	65.1	67.7
	記述式		3	30.7	34.4

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



※一つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率（%）		無解答率（%）			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）	
1一	司会④の発言の内容をまとめて書く	目的に応じて、話合いの観点を整理する	5-6オ										○			62.5	65.2	9.4	7.9
1二	林さん⑥の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	5-6エ										○			58.1	60.2	3.9	3.5
1三	大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	5-6エ	5-6ウ									○			27.0	28.3	6.2	5.0
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える			5-6ウ								○			68.3	71.9	10.3	8.2
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	5-6ウ	5-6ウ									○			22.5	26.9	9.6	7.4
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む			5-6イ								○			64.4	66.0	4.8	4.3
3一（1）	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える			5-6エ	5-6イ（カ）							○	○		79.4	80.4	4.6	4.4
3一（2）	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する				5-6エ	5-6イ（カ）								○	○		56.7	59.2	5.7
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える			3-4オ								○			47.6	48.5	20.8	19.8
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	5-6ウ	5-6エ									○			42.7	48.1	30.6	26.0

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	0/11問	0/10問	0/10問
無解答率が全国以下の設問数	0/11問	1/10問	0/10問
無解答率が5ポイント以上の設問数	6/11問	8/10問	7/10問

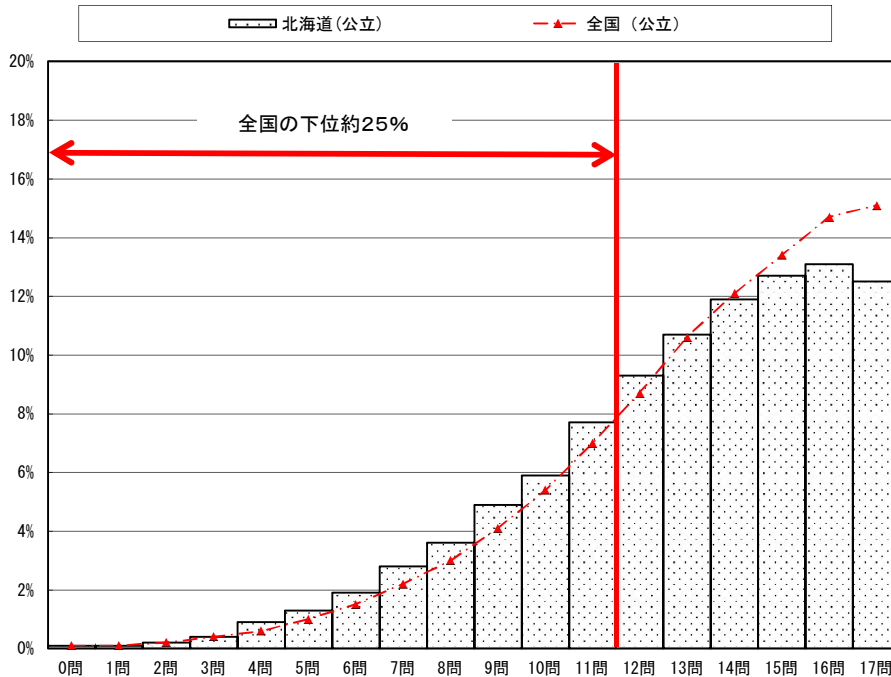
## ■ 小学校算数A

### 【概要】

- 平均正答率は、75.8%
- 全国の平均正答率との差は、-2.3ポイントで、平成25年度と同じ

	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	42,949	12.9 / 17	75.8	14.0	3.3
全国(公立)	1,080,657	13.3 / 17	78.1	14.0	3.2

正答数 (児童の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
0問(0.0%)	0.1	0.1
1問(5.9%)	0.1	0.1
2問(11.8%)	0.2	0.2
3問(17.6%)	0.4	0.4
4問(23.5%)	0.9	0.6
5問(29.4%)	1.3	1.0
6問(35.3%)	1.9	1.5
7問(41.2%)	2.8	2.2
8問(47.1%)	3.6	3.0
9問(52.9%)	4.9	4.1
10問(58.8%)	5.9	5.4
11問(64.7%)	7.7	7.0
12問(70.6%)	9.3	8.7
13問(76.5%)	10.7	10.6
14問(82.4%)	11.9	12.1
15問(88.2%)	12.7	13.4
16問(94.1%)	13.1	14.7
17問(100.0%)	12.5	15.1



11問以下の割合	29.8	25.6
----------	------	------

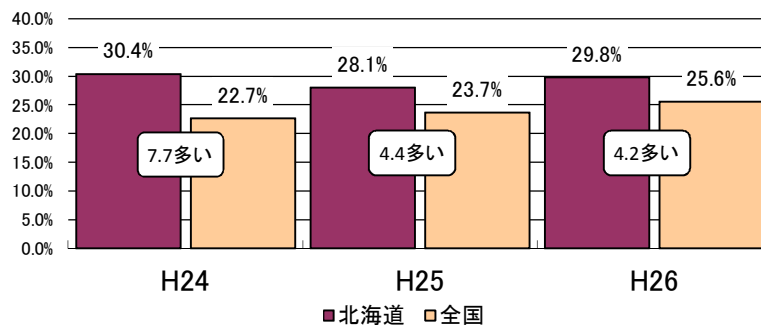
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、11問以下の正答数(正答率は64.7%以下)。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

### 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	30.4%	22.7%	28.1%	23.7%	29.8%	25.6%
	19問中 11問以下		19問中 12問以下		17問中 11問以下	
全国との差	7.7 多い		4.4 多い		4.2 多い	
拡大・縮小	差が3.3ポイント縮小			差が0.2ポイント縮小		



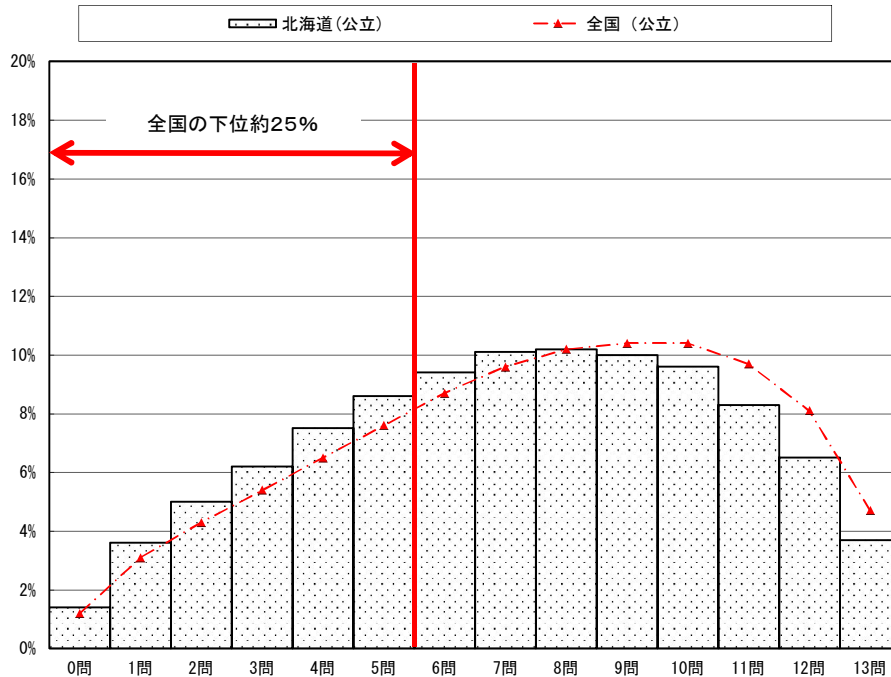
## ■ 小学校算数B

### 【概要】

- 平均正答率は、55.2%
- 全国の平均正答率との差は、-4.4ポイント（平成25年度）から-3.0ポイントに縮小

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	42,930	7.2 / 13	55.2	7.0	3.3
全国（公立）	1,080,442	7.6 / 13	58.2	8.0	3.3

正答数（児童の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	1.4	1.2
1問（7.7%）	3.6	3.1
2問（15.4%）	5.0	4.3
3問（23.1%）	6.2	5.4
4問（30.8%）	7.5	6.5
5問（38.5%）	8.6	7.6
6問（46.2%）	9.4	8.7
7問（53.8%）	10.1	9.6
8問（61.5%）	10.2	10.2
9問（69.2%）	10.0	10.4
10問（76.9%）	9.6	10.4
11問（84.6%）	8.3	9.7
12問（92.3%）	6.5	8.1
13問（100.0%）	3.7	4.7



5問以下の割合	32.3	28.1
---------	------	------

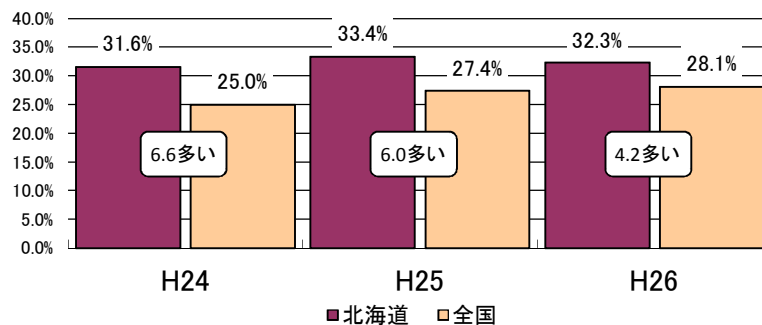
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、5問以下の正答数（正答率は38.5%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

### 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合	31.6%	25.0%	33.4%	27.4%	32.3%	28.1%
	13問中 5問以下		13問中 5問以下		13問中 5問以下	
全国との差	6.6 多い		6.0 多い		4.2 多い	
拡大・縮小	差が0.6ポイント縮小			差が1.8ポイント縮小		

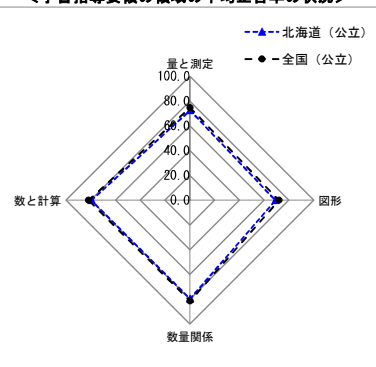


# 設問別調査結果 [算数A：主として知識]

## 集計結果

対象学校数	北海道（公立） 1,096	全国（公立） 20,177	対象児童数	北海道（公立） 42,949	全国（公立） 1,080,657
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体					
学習指導要領の領域	数と計算	8	79.6	81.8	
	量と測定	3	72.6	74.8	
	図形	4	69.0	71.8	
	数量関係	3	79.6	81.3	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	8	86.2	87.9	
	数量や図形についての知識・理解	9	66.6	69.5	
問題形式	選択式	8	67.8	70.7	
	短答式	9	83.0	84.8	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）	
1(1)	46 + 57 を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	2A (2)ア						○		○				96.8	96.9	0.0	0.1
1(2)	903 × 6 を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	3A (3)イ						○		○				92.9	92.8	0.2	0.2
1(3)	9 - 0.8 を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	3A (5)イ						○		○				82.4	83.8	0.9	0.8
1(4)	2 ÷ 5 を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	4A (5)ウ						○		○				90.4	91.8	0.9	0.9
1(5)	100 - 20 × 4 を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				4B (2)ア			○		○				79.2	80.9	0.4	0.5
1(6)	1/3 + 2/5 を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	5A (4)オ						○		○				87.0	90.6	1.4	1.1
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量) × (割合)になることを理解している	5A (3)ア						○	○					68.5	71.9	0.3	0.3
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量) × (割合)になることを理解している	5A (3)ア						○	○					49.2	54.1	0.4	0.4
3	示された分数の中から、1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	5A (4)アイエ							○	○				70.0	72.5	0.7	0.6
4(1)	8m <sup>2</sup> に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	5B (4)ア							○	○				80.5	82.3	0.8	0.7
4(2)	8m <sup>2</sup> に16人いるAの部屋について、1m <sup>2</sup> 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	5B (4)ア							○					58.0	60.8	4.0	3.4
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	5C (1)エ						○		○				80.8	83.9	1.6	1.5
5(2)	1cm <sup>3</sup> の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm <sup>3</sup> )と測定について理解している	5B (2)アイ							○	○				79.1	81.1	2.2	1.8
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	4C (1)アイ							○	○				47.2	52.0	0.7	0.6
7	縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面①になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	2C (1)ウ 4C (2)ア							○	○				67.7	69.4	0.7	0.7
8	答えが100 - 20 × 4の式で求められる問題を選ぶ	四則の混合した式の意味について理解している				4D (2)ア				○	○				79.5	81.0	1.1	0.9
9	正五角形の1辺の長さをacm、まわりの長さを△cmとしたときの、口と△の関係を正しく表している式を選ぶ	二つの数量の関係を口、△などの記号を用いて式に表すことができる	5C (1)ア			4D (1)ア 4D (2)ウ			○		○				80.0	82.0	1.5	1.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

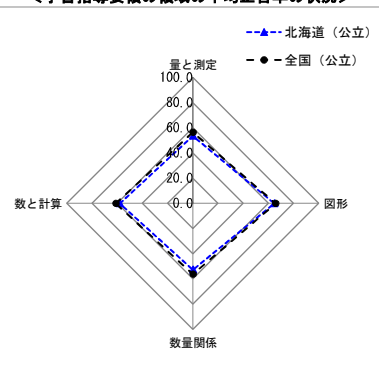
	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	1/19問	3/19問	1/17問
無解答率が全国以下の設問数	2/19問	5/19問	7/17問
無解答率が5ポイント以上の設問数	4/19問	1/19問	0/17問

# 設問別調査結果 [算数B：主として活用]

## 集計結果

対象学校数	北海道（公立） 1,096	全国（公立） 20,176	対象児童数	北海道（公立） 42,930	全国（公立） 1,080,442
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体		13	55.2	58.2	
学習指導要領の領域	数と計算	8	58.1	61.3	
	量と測定	5	53.6	56.5	
	図形	1	64.6	65.7	
	数量関係	5	52.7	56.2	
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	6	43.2	47.8	
	数量や図形についての技能	4	74.5	76.2	
	数量や図形についての知識・理解	3	53.4	54.8	
問題形式	選択式	4	63.5	64.7	
	短答式	4	59.8	62.2	
	記述式	5	44.8	49.7	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）	全国（公立）	
1 (1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見直しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	3A (3)ア												93.8	94.6	0.3	0.3
1 (2)	二人の説明を基に、37×24の積が888になることを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	2A (1)エ 3A (3)ウ		40 (3)ア										49.1	55.2	7.8	6.0
2 (1)	6・7月の水の使用量1500m <sup>3</sup> は、プールに入る水の量250m <sup>3</sup> の何倍かを求める式と答えを書く	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	4A (3)イエ	5B (2)ア											79.9	82.5	3.4	3.0
2 (2)	1目盛りを50m <sup>3</sup> として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる		5B (2)ア	3D (3)ア										64.5	69.1	3.2	2.6
2 (3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる		5B (2)ア	2D (3)ア 3D (3)ア 4D (4)イ 5D (4)イ										61.8	61.5	1.4	1.2
3 (1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる		3B (3)イ											35.1	38.6	4.6	3.4
3 (2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	1A (1)キ 2A (1)オ												54.2	56.7	2.3	1.8
3 (3)	示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる		2B (2)ア 5B (4)ア											26.5	30.6	2.3	1.9
4 (1)	⑦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	1A (1)イ		4B (1)ア										59.7	62.2	2.1	1.7
4 (2)	二人の⑧のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる		5A (1)イ											55.1	60.5	15.2	12.1
5 (1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる			2C (1)イ										64.6	65.7	6.1	5.2
5 (2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる		5A (3)ア											44.1	46.1	4.3	3.5
5 (3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる		5A (3)イ	5D (3)										28.5	33.0	16.7	13.1

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	0/13問	0/13問	1/13問
無解答率が全国以下の設問数	0/13問	0/13問	1/13問
無解答率が5ポイント以上の設問数	7/13問	6/13問	4/13問

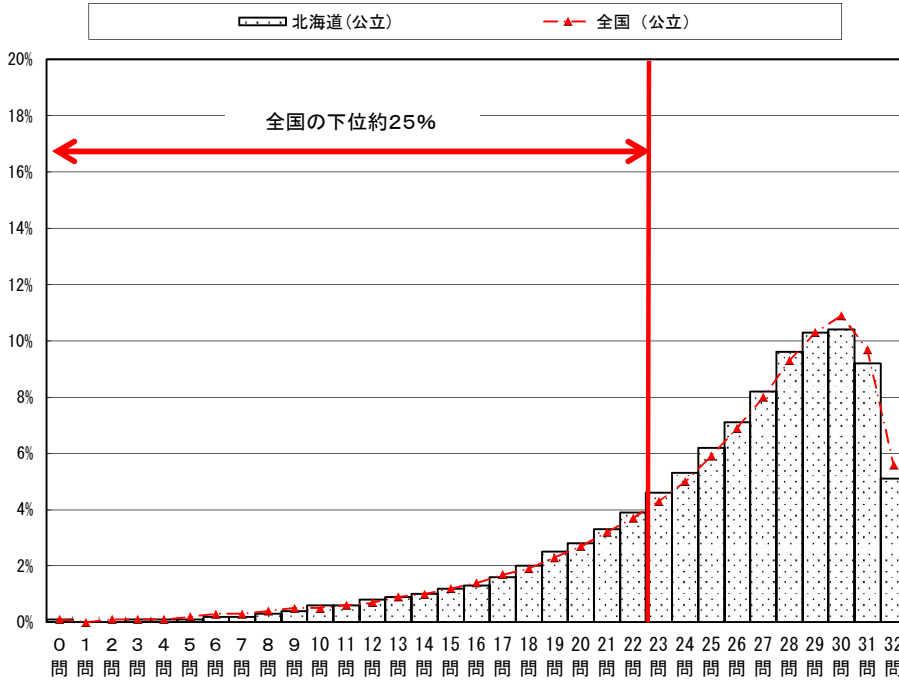
# ■ 中学校国語 A

## 【概要】

- 平均正答率は、79.4%
- 全国の平均正答率との差は、-0.4ポイント（平成25年度）から0に

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	41,769	25.4 / 32	79.4	27.0	5.5
全国（公立）	1,017,965	25.4 / 32	79.4	27.0	5.7

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.1	0.1
1問（3.1%）	0.0	0.0
2問（6.3%）	0.0	0.1
3問（9.4%）	0.1	0.1
4問（12.5%）	0.1	0.1
5問（15.6%）	0.1	0.2
6問（18.8%）	0.2	0.3
7問（21.9%）	0.2	0.3
8問（25.0%）	0.3	0.4
9問（28.1%）	0.4	0.5
10問（31.3%）	0.6	0.5
11問（34.4%）	0.6	0.6
12問（37.5%）	0.8	0.7
13問（40.6%）	0.9	0.9
14問（43.8%）	1.0	1.0
15問（46.9%）	1.2	1.2
16問（50.0%）	1.3	1.4
17問（53.1%）	1.6	1.7
18問（56.3%）	2.0	1.9
19問（59.4%）	2.5	2.3
20問（62.5%）	2.8	2.7
21問（65.6%）	3.3	3.2
22問（68.8%）	3.9	3.7
23問（71.9%）	4.6	4.3
24問（75.0%）	5.3	5.0
25問（78.1%）	6.2	5.9
26問（81.3%）	7.1	6.9
27問（84.4%）	8.2	8.0
28問（87.5%）	9.6	9.3
29問（90.6%）	10.3	10.3
30問（93.8%）	10.4	10.9
31問（96.9%）	9.2	9.7
32問（100.0%）	5.1	5.6



● 全国の下位約25%は、22問以下の正答数（正答率は68.8%以下）。

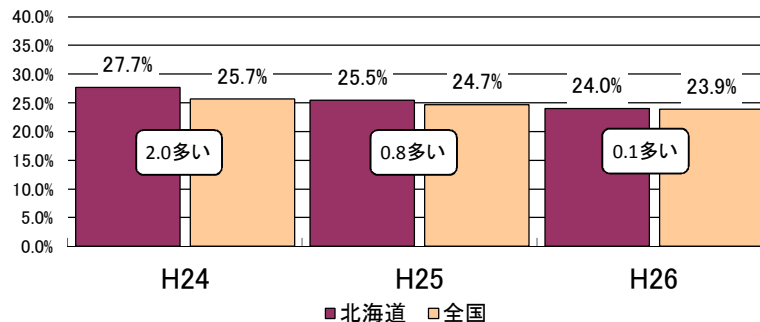
## 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

22問以下の割合	24.0	23.9
----------	------	------

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	27.7%	25.7%	25.5%	24.7%	24.0%	23.9%
	32問中 21問以下		32問中 21問以下		32問中 22問以下	
全国との差	2.0 多い		0.8 多い		0.1 多い	
拡大・縮小	差が1.2 ポイント縮小			差が0.7 ポイント縮小		

※全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。



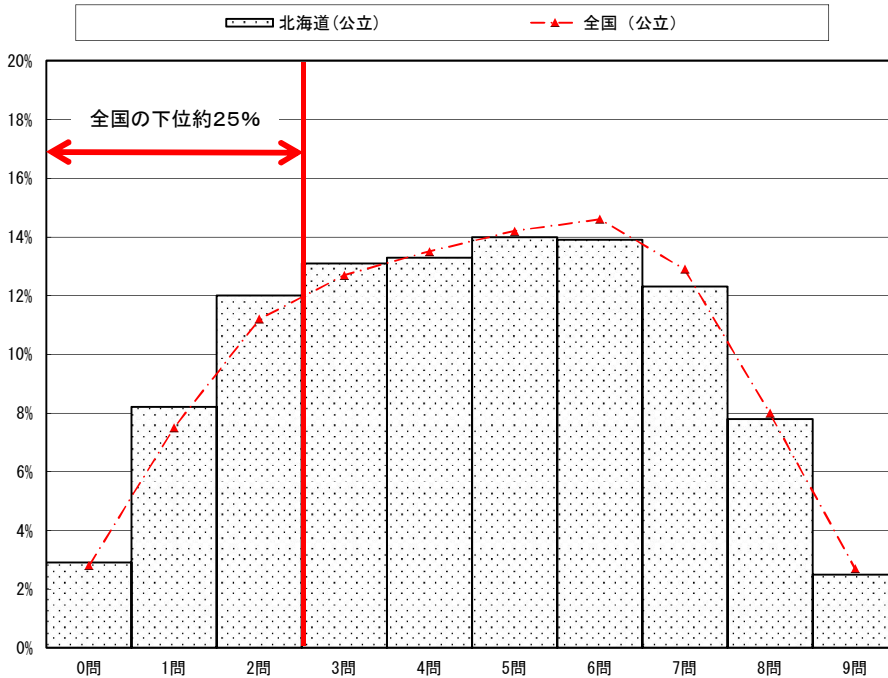
# ■ 中学校国語B

## 【概要】

- 平均正答率は、49.9%
- 全国の平均正答率との差は、-1.2ポイント（平成25年度）から-1.1ポイントに縮小

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	41,765	4.5 / 9	49.9	5.0	2.3
全国(公立)	1,018,157	4.6 / 9	51.0	5.0	2.3

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
0問 (0.0%)	2.9	2.8
1問 (11.1%)	8.2	7.5
2問 (22.2%)	12.0	11.2
3問 (33.3%)	13.1	12.7
4問 (44.4%)	13.3	13.5
5問 (55.6%)	14.0	14.2
6問 (66.7%)	13.9	14.6
7問 (77.8%)	12.3	12.9
8問 (88.9%)	7.8	8.0
9問 (100.0%)	2.5	2.7



2問以下の割合	23.1	21.5
---------	------	------

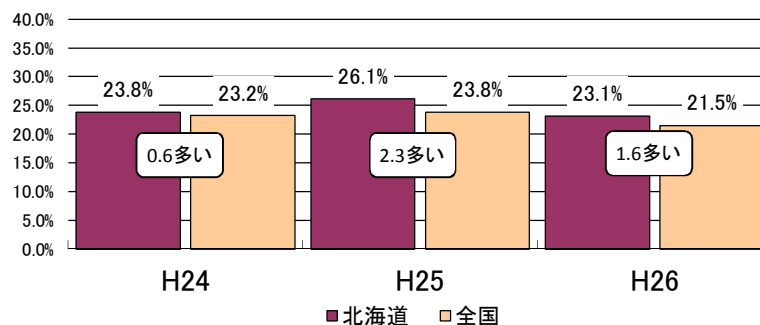
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、2問以下の正答数（正答率は22.2%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

## 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	23.8%	23.2%	26.1%	23.8%	23.1%	21.5%
	9問中 4問以下		9問中 4問以下		9問中 2問以下	
全国との差	0.6 多い		2.3 多い		1.6 多い	
拡大・縮小	差が1.7ポイント拡大			差が0.7ポイント縮小		

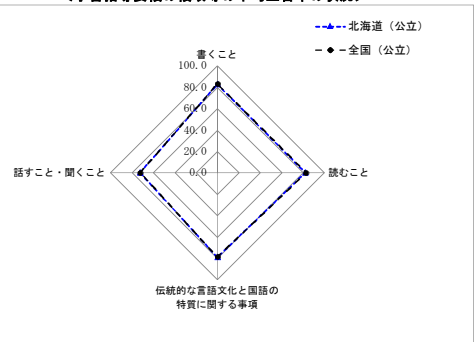


設問別調査結果 [国語A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	621	9,742		41,769	1,017,965
分類	区分		対象設問数(問)	平均正答率(%)	
				北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域等	全体		32	79.4	79.4
	話すこと・聞くこと		4	72.5	72.3
	書くこと		6	82.9	83.4
	読むこと		5	82.0	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		17	79.0	78.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		0		
	話す・聞く能力		4	72.5	72.3
	書く能力		6	82.9	83.4
	読む能力		5	82.0	82.9
	言語についての知識・理解・技能		17	79.0	78.7
問題形式	選択式		20	82.9	83.2
	短答式		12	73.5	73.1
		記述式	0		

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)			
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1-1	フリップの効果の説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	2ウ						○				○			78.1	78.6	0.1	0.2
1-2	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	1エ						○				○			80.6	80.3	0.1	0.2
2-1	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	2ウ						○				○			91.3	90.9	0.1	0.2
2-2	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える	2エ						○				○			79.0	79.8	9.8	9.2
3-1	主人公が「素直りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ					○			○			91.2	91.9	0.1	0.2
3-2	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア					○			○			80.6	79.8	0.1	0.2
3-3	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したものとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ					○						77.3	79.1	0.3	0.4
4-1	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する	1イ							○			○			92.6	92.6	0.2	0.4
4-2	主語を置き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える	1エ							○			○			81.2	80.5	3.0	3.1
5-1	「動物」と「外界のもの」との組合せとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する			2ア					○			○			76.4	78.2	0.3	0.4
5-2	「徐々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する			2イ					○			○			84.4	85.6	0.3	0.5
6-1	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	2オ						○				○			55.7	54.3	5.9	5.9
6-2	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	1オ						○				○			75.5	76.0	1.1	1.2
7-1	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	2ア							○			○			83.7	84.6	0.4	0.6
7-2	文章の構成を変える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す	2オ							○			○			69.8	72.1	0.8	1.0
8-1	漢字を書く(地域の人をシヨウタイする)				2(1)ウ(イ)						○		○			53.2	57.6	14.9	12.3
8-2	漢字を書く(円のハンケイを求める)	文脈に即して漢字を正しく書く			2(1)ウ(イ)						○		○			57.4	59.5	3.2	3.3
8-3	漢字を書く(計画を行動にうつす)				2(1)ウ(イ)						○		○			75.0	73.6	11.3	10.9
8-1	漢字を読む(アユの種魚を放流する)				2(1)ウ(ア)						○		○			77.5	77.0	6.8	7.7
8-2	漢字を読む(このホールは音響効果が良い)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(ア)						○		○			92.4	88.6	2.8	4.1
8-3	漢字を読む(新記録に挑む)				2(1)ウ(ア)						○		○			95.8	95.2	0.9	1.3



設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
8三ア	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したときは、金が <b>ば</b> 回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				1(1) イ(ウ)					○	○		57.2	59.2	0.7	1.0
8三イ	適切な語句を選択する(先のこととは分からないが、 <b>とりあえず</b> 準備だけはしておこう)		1(1) イ(ウ)						○	○			96.4	96.2	0.4	0.6	
8三ウ	適切な語句を選択する(地域の伝統的な文化を継承する)		2(1) イ(イ)						○	○			80.0	80.8	0.6	0.8	
8三エ	適切な語句を選択する(笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う門には福来たる」という)		1(1) イ(ウ)						○	○			90.1	89.5	0.5	0.7	
8三オ	適切な敬語を選択する(お客様、私が校内を <b>ご案内</b> します)		2(1) イ(ア)						○	○			93.0	93.0	0.6	0.8	
8三カ	適切な語句を選択する(あの人は、 <b>単刀直入</b> にものを言う)		1(1) イ(ウ)						○	○			88.5	86.3	0.8	1.1	
8三キ	適切な語句を選択する(忙しい兄は、休日にのびのびと羽を <b>伸ばす</b> )		1(1) イ(ウ)						○	○			93.0	92.1	0.8	1.0	
8四	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を <b>養う</b> )	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く	2(1) イ(イ)					○	○			59.1	59.9	12.5	12.3		
8五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(まうけて)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	1(1) ア(ア)					○	○			85.9	80.3	5.5	7.0		
8五2	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	古典と昔話とを対応させて内容を捉える	2(1) ア(イ)					○	○			70.1	71.0	8.3	9.0		
8六	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く	1(2) ア					○	○			78.3	77.6	1.4	1.6		

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	11/32問	14/32問	17/32問
無解答率が全国以下の設問数	20/32問	28/32問	28/32問
無解答率が5ポイント以上の設問数	8/32問	5/32問	8/32問

# 設問別調査結果 [国語B：主として活用]

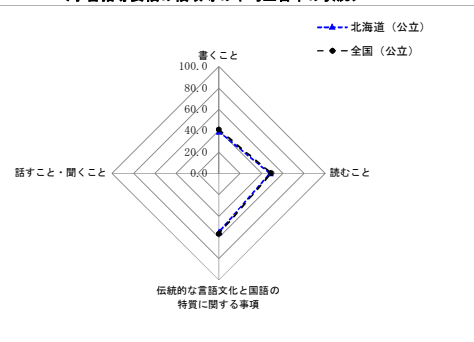
## 集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	621	9,742		41,765	1,018,157

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			北海道(公立)	全国(公立)
	全体	9	49.9	51.0
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0		
	書くこと	3	39.2	41.0
	読むこと	8	47.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	55.3	56.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	39.2	41.0
	話す・聞く能力	0		
	書く能力	3	39.2	41.0
	読む能力	8	47.9	49.2
問題形式	言語についての知識・理解・技能	4	55.3	56.8
	選択式	6	55.3	55.9
	短答式	0		
	記述式	3	39.2	41.0

## <学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1-1	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する			1(1) イ(オ)					○	○		65.9	65.3	0.2	0.3	
1-2	標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの方について、自分の考えをもつ		2 エ					○		○		57.2	58.9	0.3	0.4	
1-3	ノートを基に、標語から伝わってくる(メッセージ)と(表現の工夫とその効果)を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	2 オ	2 ウ	1(1) イ(オ)	○	○	○	○		○	45.9	48.2	4.4	3.4		
2-1	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える		1 イ					○		○		30.3	31.4	0.4	0.6	
2-2	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る		1 カ					○		○		60.1	60.9	0.5	0.7	
2-3	水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く		1 ウ	2 オ	○	○	○			○	27.5	28.4	18.5	16.0		
3-1	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る		1 カ					○		○	52.8	52.0	0.5	0.7		
3-2	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する		2 イ	2(1) ア(イ)				○	○	○	65.4	67.2	0.6	0.8		
3-3	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く		1 ウ	2 エ	2(1) ア(ア)	○	○	○		○	44.2	46.5	9.8	8.6		

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	4/9問	0/9問	2/9問
無解答率が全国以下の設問数	6/9問	5/9問	6/9問
無解答率が5ポイント以上の設問数	3/9問	2/9問	2/9問

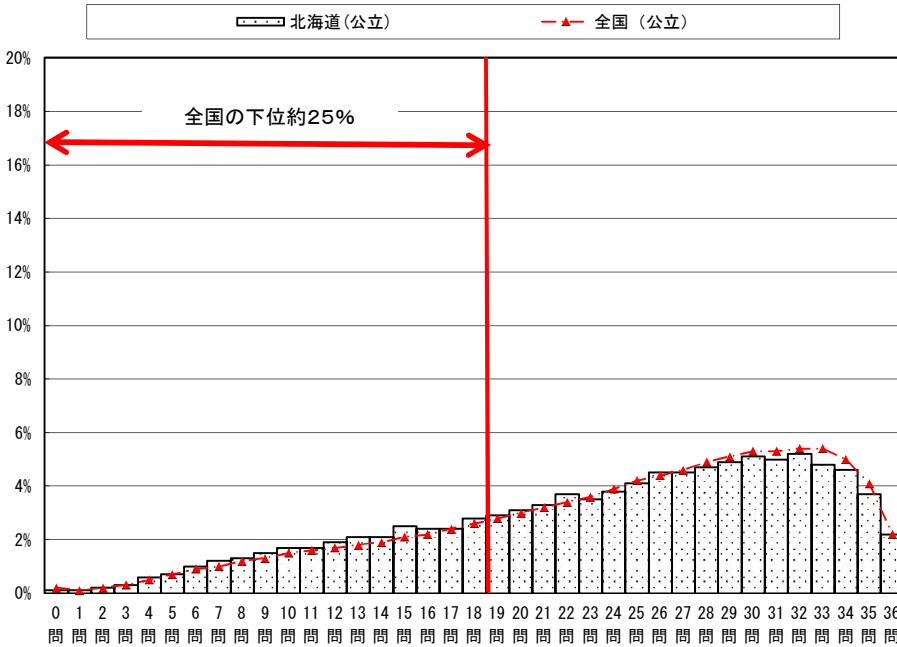
# ■ 中学校数学A

## 【概要】

- 平均正答率は、66.0%
- 全国の平均正答率との差は、-1.4ポイントで、平成25年度と同じ

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	41,772	23.8 / 36	66.0	25.0	8.3
全国(公立)	1,018,328	24.3 / 36	67.4	26.0	8.2

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
0問(0.0%)	0.1	0.2
1問(2.8%)	0.1	0.1
2問(5.6%)	0.2	0.2
3問(8.3%)	0.3	0.3
4問(11.1%)	0.6	0.5
5問(13.9%)	0.7	0.7
6問(16.7%)	1.0	0.9
7問(19.4%)	1.2	1.0
8問(22.2%)	1.3	1.2
9問(25.0%)	1.5	1.3
10問(27.8%)	1.7	1.5
11問(30.6%)	1.7	1.6
12問(33.3%)	1.9	1.7
13問(36.1%)	2.1	1.8
14問(38.9%)	2.1	1.9
15問(41.7%)	2.5	2.1
16問(44.4%)	2.4	2.2
17問(47.2%)	2.4	2.4
18問(50.0%)	2.8	2.6
19問(52.8%)	2.9	2.8
20問(55.6%)	3.1	3.0
21問(58.3%)	3.3	3.2
22問(61.1%)	3.7	3.4
23問(63.9%)	3.5	3.6
24問(66.7%)	3.8	3.9
25問(69.4%)	4.1	4.2
26問(72.2%)	4.5	4.4
27問(75.0%)	4.5	4.6
28問(77.8%)	4.7	4.9
29問(80.6%)	4.9	5.1
30問(83.3%)	5.1	5.3
31問(86.1%)	5.0	5.3
32問(88.9%)	5.2	5.4
33問(91.7%)	4.8	5.4
34問(94.4%)	4.6	5.0
35問(97.2%)	3.7	4.1
36問(100.0%)	2.2	2.2



● 全国の下位約25%は、18問以下の正答数(正答率は50%以下)。

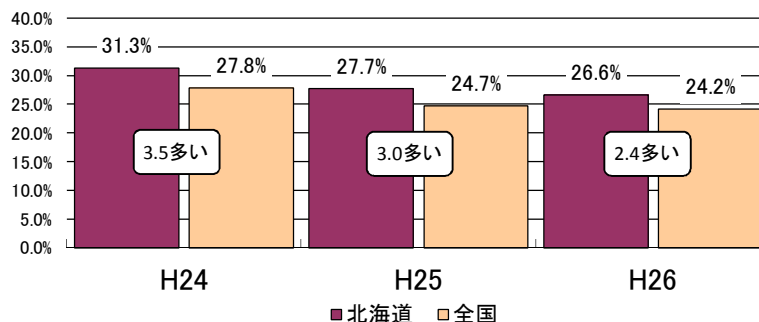
## 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

18問以下の割合	26.6	24.2
----------	------	------

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	31.3%	27.8%	27.7%	24.7%	26.6%	24.2%
	36問中 17問以下		36問中 17問以下		36問中 18問以下	
全国との差	3.5 多い		3.0 多い		2.4 多い	
拡大・縮小	差が0.5ポイント縮小		差が0.6ポイント縮小			

※全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。



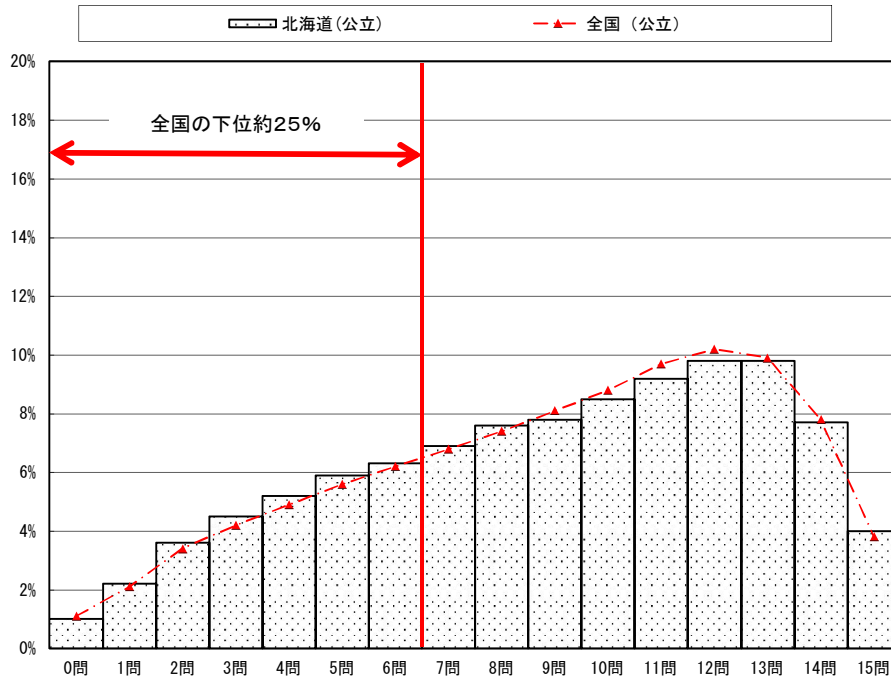
## ■ 中学校数学B

### 【概要】

- 平均正答率は、59.4%
- 全国の平均正答率との差は、-2.4ポイント（平成25年度）から-0.4ポイントに縮小

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	41,763	8.9 / 15	59.4	9.0	3.9
全国（公立）	1,018,365	9.0 / 15	59.8	10.0	3.9

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	1.0	1.1
1問（6.7%）	2.2	2.1
2問（13.3%）	3.6	3.4
3問（20.0%）	4.5	4.2
4問（26.7%）	5.2	4.9
5問（33.3%）	5.9	5.6
6問（40.0%）	6.3	6.2
7問（46.7%）	6.9	6.8
8問（53.3%）	7.6	7.4
9問（60.0%）	7.8	8.1
10問（66.7%）	8.5	8.8
11問（73.3%）	9.2	9.7
12問（80.0%）	9.8	10.2
13問（86.7%）	9.8	9.9
14問（93.3%）	7.7	7.8
15問（100.0%）	4.0	3.8



6問以下の割合	28.7	27.5
---------	------	------

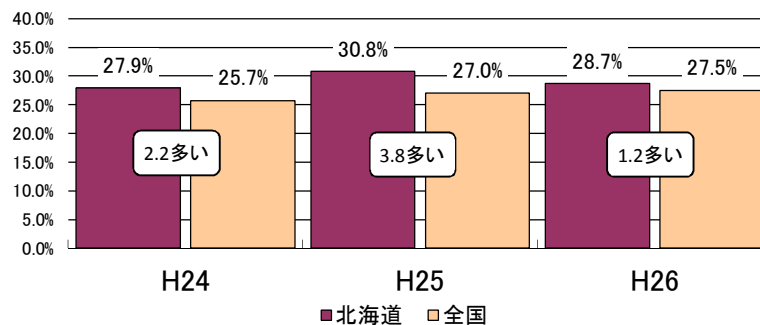
※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、6問以下の正答数（正答率は40%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

### 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

	H24		H25		H26	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合	27.9%	25.7%	30.8%	27.0%	28.7%	27.5%
	15問中4問以下		16問中3問以下		15問中6問以下	
全国との差	2.2 多い		3.8 多い		1.2 多い	
拡大・縮小	差が1.6ポイント拡大			差が2.6ポイント縮小		

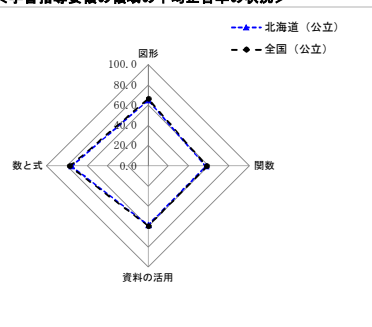


設問別調査結果 [数学A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	621	9,741		41,772	1,018,328
分類	区分		対象設問数(問)	平均正答率(%)	
	全体			北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と式		12	75.7	77.4
	図形		12	65.1	66.4
	関数		8	56.9	58.0
	資料の活用		4	58.3	59.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		0		
	数学的な技能		15	66.2	68.2
	数量や図形などについての知識・理解		21	66.0	66.8
問題形式	選択式		18	63.6	64.4
	短答式		18	68.5	70.4
	記述式		0		

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	$3/4 \div 5/6$ を計算する	分数の除法の計算ができる	小6(1)イ								○		○	82.3	85.8	3.5	2.8
1(2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1(1)ウ								○		○	65.4	70.7	1.5	1.5
1(3)	-7の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	1(1)ア									○		80.1	81.0	7.3	5.9
1(4)	35を基準にして38を正の数で表す	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	1(1)ア,エ									○		89.4	91.1	2.5	2.3
2(1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2)エ									○		41.0	45.2	11.4	11.1
2(2)	$10xy \div 5x$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	2(1)ア									○		90.1	90.7	2.5	2.4
2(3)	$a=2, b=3$ のときの式 $ab^2$ の値を求める	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	2(1)イ									○		81.7	82.6	6.1	5.9
2(4)	男子m人と女子n人が1人2個ずつ持った風船の合計数を、mとnを用いて表した式を選ぶ	数量を文字式で表すことができる	2(1)イ									○	○	90.0	91.2	0.3	0.4
3(1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	等式の性質と移項の関係を理解している	1(3)イ									○	○	89.8	89.7	0.5	0.6
3(2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	1(3)ウ									○		58.4	59.5	13.0	12.4
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることことができる	2(2)ウ									○		73.4	74.1	1.3	1.0
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y=3x-2 \\ y=2x+3 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ									○		66.3	67.2	10.4	10.0
4(1)	線対称な図形を完成する	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる	小6(1)イ									○		94.1	93.8	2.4	2.5
4(2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	1(1)ア									○	○	56.6	56.0	0.6	0.7
4(3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	1(1)イ									○		41.9	42.5	0.4	0.6
5(1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	1(2)ア									○	○	79.2	81.0	4.9	4.2
5(2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している	1(2)イ									○	○	84.4	84.8	0.4	0.5
5(3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる	1(2)イ									○		66.8	67.7	7.9	7.4
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	1(2)ウ									○	○	34.9	38.7	0.6	0.7
6(1)	長方形ABCDにおいて、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	2(2)ウ									○	○	58.9	61.7	0.5	0.6
6(2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	2(1)ア									○		71.3	73.4	0.8	1.0
6(3)	n角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	n角形の内角の和を求める式 $180 \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味を理解している	2(1)イ									○	○	45.5	47.8	0.8	1.0
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ウ									○	○	72.8	73.1	0.7	0.9
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性と意味を理解している	2(2)イ,ウ									○	○	74.8	75.8	8.0	7.2
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「-は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	1(1)ア									○	○	34.3	35.8	18.9	17.9

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)			
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方や数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)			
10(1)	$x=2, y=6$ の比例の式を求める	比例の関係を式に表すことができる			1(1)エ						○			○		53.9	56.7	14.1	13.0
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	反比例の意味を理解している			1(1)イ								○	○		74.8	75.9	0.9	1.1
10(3)	$s=vt$ を基に、速さ $v$ が一定のとき、時間 $t$ と道のり $s$ の関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる			1(1)エ								○	○		58.6	60.4	1.3	1.5
10(4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している			1(1)エ								○	○		43.7	45.7	1.5	1.7
11(1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1)イ								○	○		49.9	47.3	1.4	1.8
11(2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴を関連付けて理解している			2(1)イ								○	○		74.8	75.1	1.2	1.4
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している			2(1)ウ								○	○		65.3	66.7	2.3	2.5
13(1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	度数分布表から相対度数を求めることができる			1(1)ア						○			○		42.0	42.7	18.0	16.7
13(2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している			1(1)ア								○	○		54.8	52.0	1.7	1.8
14(1)	運びようを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ	確率の意味を理解している			2(1)ア								○	○		76.8	76.6	1.9	2.0
14(2)	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	樹形図などを利用して、確率を求めることができる			2(1)ア						○			○		59.4	65.1	12.6	10.6

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

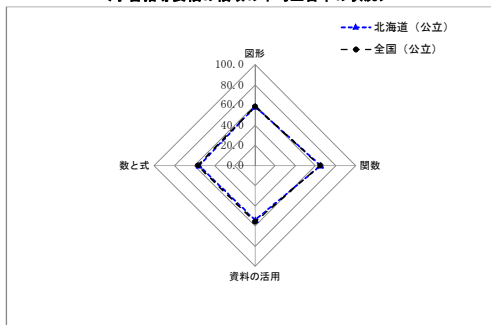
	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	6/36問	7/36問	6/36問
無解答率が全国以下の設問数	26/36問	21/36問	20/36問
無解答率が5ポイント以上の設問数	7/36問	13/36問	11/36問

設問別調査結果 [数学B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	621	9,741		41,763	1,018,365
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
学習指導要領の領域	全体	15	59.4	59.8	
	数と式	3	55.4	56.9	
	図形	5	58.2	58.6	
	関数	5	65.0	64.4	
	資料の活用	2	54.1	55.9	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	14	57.4	57.9	
	数学的な技能	0			
	数量や図形などについての知識・理解	1	86.7	87.5	
問題形式	選択式	3	83.5	83.2	
	短答式	6	62.8	63.3	
	記述式	6	43.8	44.8	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1(1)	案内図を基に、経路を示す折り紙を選ぶ	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができる	1(2)	ア,イ									78.0	77.0	0.2	0.3
1(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる	1(2)	ア,イ									92.9	92.8	0.3	0.4
1(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求め方を言葉や図で説明する	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる	1(2)	ア,イ									57.5	60.6	14.5	12.7
2(1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を变形する	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に变形することで、その説明を完成することができる	2(1)	イ,ウ									61.4	61.2	9.8	9.3
2(2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる	2(1)	イ,ウ									63.6	65.4	9.8	9.0
2(3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	2(1)	イ,ウ									41.1	44.2	8.5	6.3
3(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1)	ウ							86.7	87.5	6.3	5.8
3(2)	大地さんの求め方を基に、ウェブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる			1(1)	ア,エ							63.5	62.3	30.4	30.1
4(1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	2(2)	イ,ウ									39.8	39.4	24.2	22.5
4(2)	$\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	2(2)	ア,ウ									22.6	23.3	26.2	25.8
5(1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる			2(1)	ア							77.7	79.7	5.3	4.8
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる			2(1)	イ							30.5	32.1	9.3	7.3
6(1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる			2(1)	イ,エ							64.8	62.7	8.8	9.0
6(2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる			2(1)	イ,エ							79.7	79.8	2.0	2.5
6(3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる			2(1)	イ,エ							30.3	29.9	19.4	17.5

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5ポイント以上の無解答率。

	H24	H25	H26
平均正答率が全国以上の設問数	1/15問	2/16問	7/15問
無解答率が全国以下の設問数	4/15問	4/16問	4/15問
無解答率が5ポイント以上の設問数	12/15問	12/16問	12/15問

## ■過去の同一問題との比較

- 過去の全国学力・学習状況調査との同一問題（7問）について、全国の正答率を上回った問題は3問。また、全国の正答率を下回った問題のうち、差が小さくなった問題は3問、差が大きくなった問題は1問。

	全国の正答率を上回った問題の数	全国の正答率を下回った問題のうち、差が小さくなった問題の数	全国の正答率を下回った問題のうち、差が大きくなった問題の数
小学校調査	1	1	0
中学校調査	2	2	1

※ 過去の調査とは、平成19～22、24年度の全国学力・学習状況調査を指す。  
 なお、各調査の実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

### （小学校国語）

問題	全道	全国	実施年度	全道	全国
	全道－全国			全道－全国	
漢字を読む（勢い）	77.3%	74.4%	平成20年度	73.1%	76.3%
	+2.9			-3.2	
漢字を書く（予防）	75.0%	77.4%	平成20年度	53.6%	63.0%
	-2.4			-9.4	

### （中学校国語）

問題	全道	全国	実施年度	全道	全国
	全道－全国			全道－全国	
漢字を書く（招待）	53.2%	57.6%	平成24年度	42.7%	51.5%
	-4.4			-8.8	
漢字を読む（音響）	92.4%	88.6%	平成20年度	91.9%	90.6%
	+3.8			+1.3	
適切な語句を選択する （あの人は、単刀直入 にものを言う）	88.5%	86.3%	平成19年度	89.7%	89.4%
	+2.2			+0.3	

### （中学校数学）

問題	全道	全国	実施年度	全道	全国
	全道－全国			全道－全国	
円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	34.9%	38.7%	平成19年度	33.4%	36.5%
	-3.8			-3.1	
反比例の性質を表した記述を選ぶ	74.8%	75.9%	平成20年度	61.5%	62.7%
	-1.1			-1.2	